



「和解の務め」音信

Ministry of Reconciliation in South Africa

(18-3)

Sept. 2018

金煥・朴貞玉

宣教の主イエス・キリストの御名で平安の挨拶を申し上げます。南アフリカは今、そろそろ春が始まるうとしております。ぶどう畑には人々が入り、ぶどうの木に手入れをしながら、今年の収穫に向け、働き始めます。その間の働きと近況をご報告いたします。

1. アウトリーチへの参加

ステレンボッシュ改革派教会は毎年6月にアウトリーチを行っています。アウトリーチとは野外伝道、或いは訪問伝道とも言える働きです。去年はほぼ1週間、多くの信徒が参加し、私たち夫婦も参加しましたが、今年は短く(3日間)、7~8人の学生、青年たちが参加しました。もちろん、私たちが参加したとは、伝道の絶好の機会です。喜んで参加しました。貧民村、それよりは良い環境の庶民層の町、政府経営の病院、一人暮らしの老人たち、子どもの家など、本当に聖書の教えの通り、この世では小さく見える人々への訪問と福音宣教、慰めを行う働きとなりました。特に、イダスベリという庶民層の町に行つて午後ずつと子どもたちと一緒に遊んだり、笑ったり、彼らを抱いてくれる白人青年たちを見ながら、深い感銘と未来への希望を感じました。しもべたちが目指している「和解の務め」をここで見るような気がしました。



2. 小さい集会開催

教会に人々が来るのを待つだけではなく、人々が住んでいるところに出かけて行くという方針を立てました。こちらでは、特に、白人以外には、ほとんど車をもっている人がいせんから、人々が遠い教会まで来るのは、なかなか難しいことです。ですので、彼らが住んでいるところに私たちが行つて、そこで礼拝と交わりの場を作るといふことです。私たちの「和解の宣教集会」に始めから参加している「モルネ」(Morne)さんの家と、グレート・ドラケンシュタインの貧民村、フロテンブルクという地域など先ず三つの場所で小さい集会を開きました。その中でグレート・ドラケンシュタインの貧民村には彼らの生活基準に合わせて小さい仮設集会所を建てる予定です。ある有志が献金してくださったものがあるので、主の御心だと信じ、実行して行きたいと思ひます。



(グレート・ドラケンシュタインでの野外集会)
※この村に仮設集会所を建てるつもりです

3. 国民高等学校の企画

南アフリカに来て切実に感じたのは教会での働きと共に社会での働きの必要性と重要性です。神学の世界でも公共神学が主張されていますが、それは信仰と神学の社会的な適用を試みる動きです。そうする内に、19世紀、デンマークのニコライ・グルントビ(Nikolai F.S. Grundtvig, 1783-1872)牧師の思想と働きに私も感銘を受け、それをこの南アフリカにも適用して見ようと思うことになりました。グルントビ牧師は、プロイセンとの戦争に負けたデンマークの国民に「神を愛し、隣人を愛し、土地を愛せよ」というキャッチフレーズを掲げて、国民高等学校を設立し、デンマークの復興を呼び起こした人物でした。



(アウトリーチの様子)

ここでは先ず短期間(1週間程度)のホリデー学校を開き、聖書、家庭、衛生、地域生活など、地域社会に必要な基本的な内容を伝えたいと思ひます。そこから段々と発展して行けば、非正規的な国民(EOLN)市民、或いは民衆とも訳せませす)教育の場としての位置づけが可能です。今から準備して来年の上半期から始めようとしております。もちろん、これは、聖書的な世界観、価値観に立つ働きです。

4. 祈りの課題

以上をもつて今年の3回目の報告をいたします。どうか、尊い執成しのお祈りをもつて和解の務めを支援し、力づけてください。皆さまの上に宣教の主の御恵みが豊かに臨まれることをお祈りいたします。いつもありがとうございます。

①ステレンボッシュ改革派教会が福音宣教により熱心になるように。
②各地域で小さい集會が形成され、リーダーも立てられるように。
③国民高等学校が良く準備され、来年適切な場所で開催できるように。そして、それが福音宣教に繋がり、教会の健全なる社会参与となるように。



(アウトリーチの様子)